

永遠の光を放つ名作

「古寺巡礼」
刊行 60 年

古寺巡礼の 土門拳

2023
3/18 土 ▶ 5/14 日

開館時間 | 10時～18時 木・金曜日は20時まで
(入館は閉館時間の30分前まで)

休館日 | 毎週月曜日(ただし、5/1は開館)

料金 | 一般 1100円 / 学生・65歳以上 900円
中高生 700円 *小学生以下、都内在住・在学の中学生および障害者手帳をお持ちの方とその介護者(2名様まで)無料

本展はオンラインによる日時指定予約を推奨いたします。事業は諸般の事情により変更することがございます。最新情報は当館ホームページでご確認ください。

主催 | クレヴィス

共催 | 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

協力 | 公益財団法人さかた文化財団 土門拳記念館

東京都写真美術館 地下1階展示室
恵比寿ガーデンプレイス内

TOP MUSEUM



- 1 飛鳥寺金堂 釈迦如来坐像面相詳細
- 2 浄瑠璃寺本堂 吉祥天立像面相
- 3 唐招提寺金堂 千手観音立像左脇千手詳細
- 4 室生寺金堂 十二神将立像(左から巳神、未神、申神、辰神)
- 5 薬師寺三重塔全景

ドキュメント、人物、古美術、建築、風景、そのい
ずれにも忘れがたい作品を残し、日本の写真史に
巨歩を記した土門拳。ライフワーク『古寺巡礼』の
第一集が刊行されたのは1963年、今年で60年を
迎えます。戦前から仏像行脚を続けた土門は、み
ずからの眼で選んだ古寺や仏像を徹底して凝視し
撮影。建築の細部や仏像の手や足、口などをク
ローズアップで捉える独自のスタイルを貫きました。
『古寺巡礼』の刊行途上、脳出血で倒れ、以後は
車椅子生活になってからも不屈の精神で撮影を
続行し、1975年、第五集で完結。本展はカラー
の代表作と、土門を魅了した室生寺の釈迦如来
坐像をはじめ、重量感のある平安初期の木彫仏を
中心にモノクロームの仏像写真と、合わせて約
120点を展観します。土門が対象の本質に迫った、
力強く個性的な「日本の美」をご覧ください。



関連イベント 4/15|土 | 5/6|土

会期中にトークイベントを開催する予定です。
最新情報は当館ホームページをご参照ください。

▶ www.topmuseum.jp

*イベント内容は変更または中止になる場合がございます。

本展関連
写真集

『土門拳の古寺巡礼』

古寺を巡るきっかけとなった戦前の室生寺
作品から、車椅子になっても撮りつづけた
『古寺巡礼』まで、代表作を新たに編集し、
写真171点と名エッセイを併載。

定価:2,640円(税込)
B5判変型/上製本/200頁

Crevis



土門拳の古寺巡礼

土門 拳 (1909-1990)

どもん・けん

1909年、山形県酒田市生まれ。1935
年、日本のグラフ・ジャーナリズムを切り
拓いた「日本工房」に入って以来、脳血
栓で倒れる1979年までの足かけ45年
にわたり、「報道写真家」として激動の
日本を記録。『文楽』『ヒロシマ』『筑豊
のこどもたち』『風貌』『古寺巡礼』など、
不朽の名作を数多く残す。1939年、
室生寺を訪れて以来、戦中も全国を巡
り仏像を撮影。1960年、脳出血で倒れ
て35ミリカメラの操作が困難となり、
大型カメラで『古寺巡礼』(全5集)の撮影
に取り組んだ。

写真提供 土門拳記念館